

# 金利指標改革を踏まえた 全銀協TIBORの現状および今後の展望 (2024年6月)



1

**全銀協TIBORは、短期金融市場の各種データにもとづき、客観的に算出されています。**

全銀協TIBOR（日本円TIBORとユーロ円TIBORの総称）は、2017年に実施した全銀協TIBOR改革により、各種データにもとづく一層客観的な（恣意性を排除した）算出プロセスとして「ウォーターフォール構造」を導入しました。

説明資料 P.6,7へ

2

**日本円TIBORは、公表を継続する指標として、透明性・頑健性・信頼性の維持、向上を目指します。**

日本円TIBORは、国際的にも認知され、市場において引き続き広く利用されるよう、IOSCOの「金融指標に関する原則」の遵守は勿論、グローバルな金利指標改革の動向を注視し、同指標の透明性・頑健性・信頼性の維持、一層の向上を目指します。

説明資料 P.12へ

3

**ユーロ円TIBORについては、2024年12月末で恒久的に公表停止することを決定しました。**

ユーロ円TIBORについては、IOSCOの「金融指標に関する原則」において認識している一部課題の解消に向けた取組みを進めた結果、当運営機関は、同指標を2024年12月末で恒久的に公表停止することを決定しました。

説明資料 P.10,12へ

## Q1

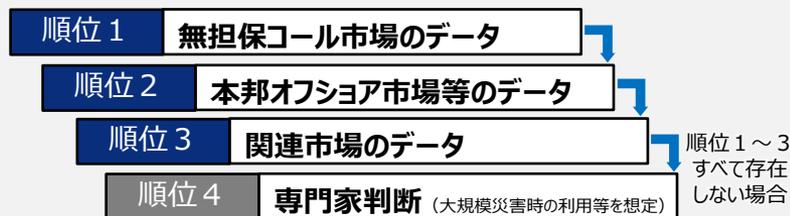
全銀協TIBORの呈示レートの算出・決定プロセスに導入された「ウォーターフォール構造」について教えてください。



## A1

- ✓ 全銀協TIBORは、その算出に当たって当運営機関やリファレンス・バンクによる恣意的な操作を排除した客観性の高い仕組みとなっています。
- ✓ リファレンス・バンクの呈示レートの算出・決定プロセスを統一・明確化することを一つのコンセプトとして実施した全銀協TIBOR改革（2017年7月）において、一段と客観性を高めるべく、算出・決定プロセスに導入されたのが、以下の「ウォーターフォール構造」です。

<「ウォーターフォール構造」の概要（日本円TIBORの場合）>



以上の、順位1～3を順にみてデータが存在するところで呈示レートが算出・決定されます。

## Q2

ユーロ円TIBORの恒久的な公表停止の決定について、その背景や内容について教えてください。



## A2

- ✓ 当運営機関は、指標の運営機関が遵守すべきとされるIOSCOの「金融指標に関する原則」を遵守している、と評価しています。
- ✓ ただし、ユーロ円TIBORについては、同原則上の一部課題を認識していたことから、その解消に向けた取組みを進め、その結果、当運営機関はユーロ円TIBORの恒久的な公表停止を決定しました。

<ユーロ円TIBORに関する課題とその対応結果>

課題

本邦オフショア市場の長期的な縮小傾向  
…「ユーロ円TIBOR」の呈示レートが、評価対象市場（本邦オフショア市場）のデータで決定される割合が低い（IOSCO原則7：「データの十分性」に対応）

結果

ユーロ円TIBORの全テナー（1週間物、1か月物、3か月物、6か月物、12か月物）を2024年12月末で恒久的に公表停止することを決定